

令和6年度 峰小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に，心身ともに健康で，自分の夢や目標のために自ら考え進んで行動できる心豊かでたくましく生きる児童の育成

- (1)健康でたくましい子【元気】 (2)よく考え進んで学ぶ子【やる気】 (3)心豊かで，思いやりのある子【思いやり】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「地域とともにある学校」

教育基本法，学校教育法及び同施行規則，学習指導要領，栃木県教育委員会の指導の指針，第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画，第2次宇都宮市学校教育スタンダード，令和6年度指導の重点等に合致した学校経営を目指す。また，本校の教育目標の達成のため，児童の実態や児童の発達段階，特性，地域社会や保護者の願いなどを十分把握するとともに，うつのみや学校マネジメントシステムを十分に生かすことにより，全教育活動を通して心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童にとって居がいのある活力あふれる楽しい学校・学級を目指し，児童が主役となる場を意図的に設定し，充実感や達成感を味わうことにより，自ら進んで行動できる児童を育成する。
- (2) 長所を引き出し，認め励ます教育を実践する中で，自己の成長を実感させ，自己肯定感を高める。規範意識の醸成，望ましい人間関係と社会性の育成に努めるために，学校教育全体をとおして人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動を推進する。
- (3) 楽しく分かる授業の実践ときめ細かな指導の充実，意欲的に取り組む授業づくり，ICT等を効果的に活用すると共に，学びに向かう集団づくり，家庭と連携した家庭学習を推進し，学力の向上を図る。
- (4) 生涯にわたって健康で安全な生活を実現する力を育むために，不審者・災害訓練，交通安全教室などを通して身を守るための行動力の育成，健康や体力の増進，望ましい食習慣の確立に努める。
- (5) ○地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用するとともに，地域学校園の教育ビジョンを念頭に小中一貫教育の利点を生かした教育活動を推進し，信頼される学校の実現を目指す。
- (6) 教育公務員としての自覚と責任を持ち，コンプライアンスを遵守するとともに，勤務時間を意識した働き方改革と校務を効率的に行うための工夫改善，事業内容の検討・見直し等を推進する。
- (7) 教職員の専門性や特性が生かせる校務分掌とその体制づくりを推進するとともに，校内研修を活性化させ，教育専門職としての資質と能力の向上を目指す。

【陽東地域学校園教育ビジョン】

「地域の教育力を生かし，地域とのかかわりを通して，確かな学力の定着を図り
心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

4 教育課程編成の方針

- (1) 地域協議会を窓口とした保護者や地域団体等の学校への積極的な参画の推進
- (2) 地域団体との連携と地域資源の積極的な活用の推進
- (3) 外部の学校評価等を活用し，地域住民が来校したくなる開かれた学校・地域とともにある学校の実現
- (4) 地域活動等への積極的な参加の奨励と相互理解の推進
- (5) 地域の教育力を最大限に活用した働き方改革の推進

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
- ・重点活動【峰小 元気・やる気・思いやり活動】の推進
 - ・学校経営への参画意識の高揚と組織的で効率的な企画・運営の工夫改善
 - ・児童や地域の実態，地域の環境に即した教育計画の作成と実践
 - ・自分の夢や目標の実現に向けてたくましく生きる児童の育成を目指した教育活動の推進
- (2) 学習指導 【やる気】＝「自ら進んで表現できる児童の育成」
- ・基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の育成を目指して教材やICT等を効果的に活用した授業，デジタル・シティズンシップの育成，問題解決的な学習の充実，日々の学習とまとめの学習の充実，家庭学習の習慣化，教科担任制の導入に向けた体制作り
 - ・「宇都宮モデル」を踏まえ，「主体的・対話的で深い学び」の授業を工夫し，「できた」「分かった」が実感できる「楽しい授業」を展開するとともに，個に応じた指導の充実を図る。
 - ・学習目標の明確化と学習のまとめや振り返りを意識した学習展開の工夫，AI型ドリル等の計画的な活用，学び合える活動等の工夫
 - ・「学習の約束」を活用した学習の準備，返事，チャイムの合図の順守の徹底
- (3) 児童生徒指導 【思いやり】＝「自ら考え，適切な判断と行動ができる児童の育成」
- ・「峰小よい子の一日」や「陽東地域学校園児童生徒の目標」を活用したルールやマナーを守る態度の育成，互いに認め合い励まし合おうとする態度，高め合える学級経営の充実
 - ・「いじめゼロ集会」の実施，人権標語を作成することで感謝する心，人を思いやる心，生命や人権を尊重する態度の育成
 - ・「特別の教科 道徳」の指導の充実と道徳的実践力の育成
 - ・共に学び合う場や互いの良さを認め合う場の意図的な設定による，望ましい人間関係の醸成
 - ・確かな児童理解に基づく自己肯定感を高める声掛けの継続と個を生かす教育の実践
 - ・家庭や各種団体と連携したあいさつ運動の推進
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
- 【元気】＝「生涯にわたり心身の健康保持増進を図ることができる児童の育成」
- ・元気っ子チャレンジや各種検定への積極的な参加，自発的なあいさつと返事の励行
 - ・「うつのみや元気っ子健康体力チェック」の活用等による進んで運動に親しむ態度の育成，自己の健康増進に向けた生活習慣の定着
 - ・感染症の予防についての正しい理解と適切な行動の指導
 - ・歯磨きボランティアの活用による歯磨き指導（きらきらクラブ）の充実
 - ・望ましい生活習慣の育成と食に関する指導の充実
 - ・教育活動全体を通じた安全教育の充実・徹底，危険回避能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A1 児童は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は，学習課題を解決するために友達と話し合ったり，必要な情報を集めたりしながら，じっくり考え，進んで学習に取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①「宇都宮モデル」を活用した授業づくりや「できた」「分かった」が実感できる「楽しい授業」を展開する。</p> <p>②児童が多様な考えをもち，主体的に学習に取り組めるようにするため，授業の中に児童が考えたり話し合ったりする時間や自分の考えを発表する場を設ける。</p>	B	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は89.8%と数値指標を十分達成している。保護者の肯定的回答は，92.9%であった。</p> <p>【次年度の方針】 地域学校園統一の「学習のきまり」を活用し，学習指導に生かすことで，児童がより主体的に学習に取り組めるようにする。</p>

<p>1- (2) 豊かな心を育む教育の推進</p>	<p>A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①全ての教育活動の中で、自他の特徴や良さについて考えたり伝え合ったりする時間や場を設定する。 ②「特別な教科 道徳」において、児童の発達段階や特性等を考慮し、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫する。 ③いじめゼロ集会や人権週間を実施し、人権を尊重する態度を育成する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は92.9%で昨年度より0.4ポイント下回っているものの、数値指標は上回っている。 【次年度の方針】 全ての教育活動の中で、自他の特徴や良さについて考えたり伝え合ったりする時間を引き続き設定し、丁寧に行っていく。また「特別な教科 道徳」の時間の授業改善に努め、児童の心に響く道徳授業を行い、継続して思いやりの心を育てていく。いじめゼロ集会や人権週間の実施を工夫し、人権を尊重する態度の育成を図る。</p>
	<p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①授業において、既習事項をもとにした少し難しい課題を用意し、児童の挑戦意欲を喚起する。 ②黙々と努力することを必要とする課題に取り組ませる中で、自分の努力の結果と向き合わせ、次の意欲につなげる。 ③根気強く取り組む喜びやおもしろさ等を児童が自主的に見出せる課題を設定し、児童が最後までやり遂げられるように支援する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は91.3%と数値指標を十分達成している。保護者の肯定的回答は84.7%であった。 【次年度の方針】 キャリア教育とも連携して、学習の積み重ねをファイルやシールなどで可視化したり、学校便りや学年便りで周知したりするなど、児童の頑張りや保護者に伝わるようにする。また、授業において、めあてを明確にし、学習の振り返りを行う。</p>
<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付けて生活している」⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①「うつのみや元気っ子チャレンジ」に参加し、楽しみながら運動する機会を数多く持たせる。 ②健康に関する意識を高めるために、外部講師や養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。 ③食育月間や給食週間などの食育行事に進んで参加するよう支援し、各自の望ましい食習慣の醸成を図る。 ④各種災害を想定した避難訓練、交通安全教室、不審者対応避難訓練を実施し、児童が危険を予測し、自らの命を守り抜くための行動力を育成する。</p>	<p>【達成状況】 保護者、教職員、児童、地域住民の肯定的回答が90%を超えている。教科体育を始め、学校行事や元気っ子チャレンジを通して楽しみながら運動に取り組むことができた。また、栄養士や養護教諭、外部講師と連携した授業や指導を行い、健康に関する子どもたちの意欲を高めた。食育月間、マナーアップ月間、おにぎり、お弁当の日、給食週間を活用して家庭との連携をすることができた。学校保健給食委員会では、子どもの実態を保護者に伝え、今後の児童の健やかな成長の為の啓発を行えた。 【次年度の方針】 今年度実施した様々な出前講座を継続するとともに、保健学習や家庭科の授業の中で、体力・保健・食育・安全の4つの分野を関連させた授業や学校の教育活動と家庭との連携を取りながら保健指導、給食指導を行う。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、自分のよさや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている」⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリアパスポート等を活用して、自らの成長や変容などの自己理解を促す。 ②学級活動や児童会活動の充実を図り、様々な集団活動に取り組む中で、自己有用感を高める。 ③帰りの会などを活用して、互いに認め合う活動等を取り入れ、自己存在感の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、91.0%で、昨年度より1.0ポイント下回っているものの、数値指標を大きく上回っている。 【次年度の方針】 引き続き、キャリアパスポートや学級活動、児童会活動等を活用して、自らの成長や変容などの自己理解を促すとともに、自己有用感の向上に努める。</p>

<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、外国語活動（英語） の授業やALTとの交流の際 に、英語を使ってコミュニケ ーションしている」⇒児童の 肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童が英語を使って自分の気持ち や考えなどを適切に伝えることがで きるようになるために、教員が自ら積 極的に英語を使う。 ②児童が生きた英語に触れる機会の 充実を図るために、ALTを活用し た、英語によるやりとりを中心とした 授業を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は87.7%で、数値 指標を上回っている。また、教職員の肯 定的回答は96.3%であった。 【次年度の方針】 教員が授業をコーディネートし、児童が 英語を使ってコミュニケーションを取 る場面を増やすなど、積極的に取り組ま せるようにする。また、引き続き、ALT を活用した、英語によるやりとりを中 心とした授業を行う。</p>
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A7 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知 っている」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①生活科・社会科の授業などにおい て、体系的な学習を行い、児童が郷土 宇都宮の歴史や伝統文化、産業など について理解し、郷土への愛情と誇りが 持てるようにする。 ②国語科の授業などにおいて、百人一 首に親しむ学習に取り組み、郷土宇都 宮に対する誇りや愛情を育む。 ③各種たより等で保護者への啓発を 行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は90.1%で、数値 指標を上回っている。保護者の肯定的回 答も81.9%で昨年度を上回った。 【次年度の方針】 各学年の実態や教科に応じて、郷土宇都 宮の歴史や伝統文化、産業などについて 触れる機会をもち、郷土宇都宮に対する 誇りや愛情を育むようにする。出前授業 での内容などを各種便り等を活用して 保護者に発信する。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、デジタル機器や図 書等を学習に活用している」 ⇒教職員の肯定的回答 80% 以上</p>	<p>①タブレット型パソコンをはじめと するデジタル機器を活用して、主体 的・対話的で深い学びを促進し、児童 の情報活用能力を育成する。 ②教科学習で学んだことを確かめたり 、自分の考えをまとめたりするなど 主体的な学習活動を効果的に行うた めに、学校図書館を活用する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%だった。 児童の肯定的回答は92.9%で数値指 標を達成している。保護者の肯定的回 答も86.8%と昨年度を上回った。 【次年度の方針】 デジタル機器の活用が充実するよう、I CT支援員を活用したり、教職員が有効 な活用についてさらに研修を重ね、情報 を共有したりして、学習活動において、 図書とデジタル機器の効果的な活用の 仕方について指導する。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、『持続可能な社会』 について、関心をもっている」 ⇒教職員の肯定的回答 80% 以上</p>	<p>①環境や国際理解、防災や食などをテ ーマにESD（持続可能な開発のため の教育）やSDGsに取り組む。 ②各教科において、これまで行ってき た学校行事や体験活動などを「持続可 能な社会」の視点から関連付け、教科 の枠を超えた横断的、総合的な教育活 動を実践する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は96.3%で、数 値指標を上回っている。 【次年度の方針】 「持続可能な社会」の実現に向けて、「S DGs」や「ESD」について教職員間 で共通理解を図ったうえで、より分か りやすい事例を挙げ、教科等との関連を 図りながら指導する。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を 必要とする児童の実態に応じ て、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80% 以上</p>	<p>①特別な支援が必要な児童について、 個別の支援計画を作成・活用し、学校 全体で指導にあたる。 ②学級担任とかがやきルーム指導員 が指導目標や指導の手立てについて、 直接話し合ったり、指導記録を確認し たりする時間を設け、かがやきルーム における指導の充実を図る。 ③保護者や関係職員（交流学級等）と 丁寧に連絡を取り合い、交流及び共同 学習を積極的に推進する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は96.3%であ り、昨年度より3.7ポイント下回っ ているものの、数値指標を上回った。 【次年度の方針】 引き続き、全職員が児童の実態を把握 し、児童・保護者に寄り添っていくこ とを共有する。様々なケースに迅速・柔軟 に対応し、チームで解決に向けて尽力す る。</p>

<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答90%以上（いじめ解消率100%）</p>	<p>①いじめゼロ強調月間はもとより、あらゆる機会を通して、いじめが許されない行為であることを指導する。 ②アンケートや教育相談の結果を踏まえて、児童理解を適切に行い、学級活動や道德の時間に望ましい人間関係を醸成するための心情や判断力を育てる。 ③HP や学校だより・児童指導だより・学年だよりを利用していじめ対策や学校の現状を公表し、家庭・地域との連携を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、96.9%で、数値指標を上回った。保護者は87.2%で、昨年度を4.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 「教育相談」「いじめアンケート」等を確実に実施し、児童理解に努める。「いじめゼロ強調月間」や学級活動など、全ての教育活動において、いじめは絶対に許されないものだという心情を教職員一丸となって育む。トラブル発生時には、組織的に、迅速かつ適切に対応していく。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①児童の自己肯定感を高めるために、児童が主体的に活動する場や活躍できる場を意図的に設定する。 ②児童と教師の信頼関係を構築するために、常日頃から児童同士の交友関係の把握に努めるとともに、受容的な態度で寄り添い、児童の話に積極的に耳を傾ける。 ③欠席状況共有シートなどで欠席状況を把握するとともに、校内教育支援委員会を活用し、学校全体で組織的・計画的に支援を行う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は94.3%で、昨年度より2.0ポイント下回ったが、数値指標は上回っている。 【次年度の方針】 引き続き、不登校を生まないための具体策を着実に実行。不登校予防のための良い実践を共有し合ったり、一人一台端末等を活用したりする。また、担任が一人で抱え込まないように、常日頃から情報交換を絶やさず、チームで解決できる体制を構築する。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」⇒児童の肯定的回答85%以上</p>	<p>①学校行事や児童会活動等で、児童が自主的・主体的に取り組む場を意図的に設定する。特に、<u>あいさつ運動では、児童の発想や主体性を生かし、学校全体であいさつの気運を高めていく。</u> ②Q-U テストや学校生活アンケートを活用して、一人一人の児童にとって居がいのある学級づくり、分かる授業の展開に努める。 ③学級活動やロング休みを利用して、学級全員で遊んだり教師と児童が共に遊んだりする機会をもつ。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、96.7%で、数値目標を大きく上回っている。 【次年度の方針】 引き続き、毎日の授業、学校行事や児童会活動、あいさつ運動等において、児童が自主的・自発的に取り組める場を意図的に設定し、活気のある明るい雰囲気を醸成していく。</p>
<p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答85%以上</p>	<p>①<u>授業のめあてを明確にするとともに、板書や発問、授業形態等を工夫した授業を行う。また、終末には授業で分かったことを振り返る時間をもつ。</u> ②児童一人一人の実態をとらえ、教材研究をするとともに、学校課題の研究や一人一授業等で積極的に授業を公開し、互いの指導法を向上させる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は97.6%と数値指標を上回った。保護者の肯定的回答は90.7%と数値指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 今後も学習のめあてを明確に示し、振り返りの時間を確保する。学校課題研究や一人一授業への取組も引き続き実施し、指導法の向上を目指す。さらに授業の様子について、学年便り等を活用し、情報を発信していく。</p>

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校職員（学校図書館司書、学校栄養職員、ALT、かがやきルーム指導員、ICT支援員、スクールカウンセラーなどを含める）が協力して学校業務に取り組める体制を整えるため、専門性や特性を生かした校務分掌を組織する。 ②チームとして学校の力を最大限に生かすために、事前に連絡や話し合いの場を設定する。さらに学校業務に取り組む中で進展状況及び達成度を確認し、改善策等を共有していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、数値指標を上回っている。学校職員（学校図書館司書、学校栄養職員、ALT、かがやきルーム指導員、ICT支援員、スクールカウンセラーなどを含める）がそれぞれの専門性や特性を生かし、協力して学校業務に取り組めるような体制を整えることができた。 【次年度の方針】 引き続き、学校職員と学校業務の進展状況及び達成度を定期的に確認するとともに、働き方改革を意識しながら改善策等を考え、学校全体で共有していく。</p>
<p>4- (3) 学校における 働き方改革の 推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校は、長時間労働を改善するために、業務の精選、校務分掌の見直し、外部人材の活用など業務負担の軽減に取り組んでいる。 ②教職員は、効率的に業務を進め、長時間労働にならないように努める。 ③勤務時間を意識した働き方を推進するため、教職員が取りやすい形でリフレッシュデーを実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は96.3%で、数値指標を上回っている。ミライム（掲示板、情報メール）の活用による職員打合せ時間の短縮、業務の精選等が、業務の軽減につながった。 【次年度の方針】 勤務時間を意識した働き方を推進する。業務の精選、校務分掌の見直し・均等化をさらに推し進める。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校 運営・教育活動の 充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①交流授業や中学校訪問等を通して中学校進学に対する児童の不安軽減を図る。 ②学校園で統一して、お弁当の日・統一献立・学校保健委員会等を行うことで学校園間の連携を強化する。 ③「陽東地域学校園ナビ」を活用して児童・保護者の陽東地域への所属感を高める。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は71.2%で、数値指標を下回った。児童の肯定的回答は、92.1%であった。 【次年度の方針】 保護者に「小中一貫教育・地域学校園」での取組などを説明する機会を設ける。家庭学習や学習のきまり、交流授業、児童指導など、学校園間の連携を強化していく。ホームページや学年・学校だよりなどを活用し、情報伝達の方法を工夫するとともに具体的な活動内容が確実に保護者や地域に伝わるようにする。また、「陽東地域学校園ナビ」の活用を通して、児童・保護者の陽東地域への所属感を高めていく。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を 生かした学校経営の 推進 5- (3) 地域と連携・協働した 学校づくりの 推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①企業、地域の各種団体、「街の先生」、宇都宮大学、ボランティアなどとの連携・協力による活動をさらに充実する。 ②「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携を密にし、学校運営の充実を図る。特に、地域コーディネーターと連絡・調整を図りながら、学校支援ボランティアの活用を図る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は、92.7%で、数値指標を上回っている。企業や「街の先生」、宇都宮大学の学生などと連携・協力して学習活動を行うことができた。 【次年度の方針】 今後も地域の各種団体や学校支援ボランティア、宇都宮大学等と連携し、地域とともに歩む学校づくりを推進していく。</p>

<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」⇒保護者、地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①教室内外の掲示物を整えるとともに、定期的な整理・整頓をさせるなどして、学習にふさわしい環境を維持する。 ②場所に応じた清掃の仕方の指導の工夫や班長への指導の充実を図り、縦割り班清掃を通して望ましい環境整備に努める。 ③長期休業等を利用して、特別教室や資料室の整備を行う。 ④安全な学習環境を確保するため、日常的な点検や消毒、換気等を行い、施設・設備の維持管理や修繕を図る。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は88.7%、地域住民の肯定的回答は83.3%で、数値指標を上回っている。定期的な机やロッカー等の整理・整頓や日常的な施設・設備の点検を行い、安全な学習環境を確保してきた。また、今年度も換気を行ったり、児童へ手洗いの励行をしたり感染症対策を地道に行ってきた。 【次年度の方針】 毎日の整理整頓や教室等の整備などを通して、学習にふさわしい環境を維持する。施設設備の維持管理では、定期的に巡視や点検を行い、計画的に修繕していく。また、今後も保護者や地域の方々と協力連携し、児童の安全に配慮した環境づくりに努めていく。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している」 ※デジタル・・・一人一台端末、ミライム、スズキ校務、さくら連絡網等 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①教職員が授業で効果的にデジタル機器やネットワークを活用できるよう、ICT支援員や情報主任と連携した研修を通して、教職員の技能向上を図る。 ②デジタル機器や各種システムを積極的に活用し、教職員同士及び保護者等との情報の共有化を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%で、数値指標を大きく上回っている。 【次年度の方針】 学習に必要な備品を適宜整備する。また、児童がタブレットを使用する上での手引きを見直し、ICT機器の使用の環境を整える。</p>
<p>小・中学校共通</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①あいさつ運動月間を設定し、児童会を中心にあいさつ運動を行う。 ②あいさつ運動月間を設定するとともに、PTAや地域協議会、地域学校園等と連携したあいさつ運動を実施する。 ③教職員が率先してあいさつをする。 ④あいさつの効果や重要性について、道徳や学級活動の時間、全体朝会・一斉下校等を活用して指導する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は96.3%で、昨年を3.4ポイント上回った。保護者の肯定的回答も88.7%で、昨年度を上回り、地域住民の肯定的回答は90.9%であった。 【次年度の方針】 心のもった明るいあいさつができるよう、教師をはじめ大人が範を示す。次年度も感染症に気を付けながらあいさつ運動の機会を設定し、啓発に努める。</p>
	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「学習のきまり」を掲示し、必要に応じて確認させるなどしながら、学習訓練を徹底させる。 ②「峰小よい子の一日」に基づいた生活目標を設定し、学級活動や朝・帰りの会等で繰り返し継続的に指導していくことにより、基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ③「峰小よい子の一日」を掲示し、めあてをもたせたり振り返りをさせたりして、自覚を深めさせる。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は91.7%で、昨年度より2.8ポイント下回ったものの、数値指標は上回っている。 【次年度の方針】 引き続き、「学習のきまり」「峰小よい子の一日」に基づいた生活を継続して指導する。定期的に振り返りを行うことで、さらに学習習慣・基本的な生活習慣を身に付けさせる。また、登下校や放課後の過ごし方について声掛けを行う。</p>

陽東地域 学校園共 通	<p>B3 児童は、家庭においても家庭学習や読書の習慣が身につけている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、家で、進んで家庭学習(宿題)や読書をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「家庭学習の手引き」を活用し、家庭学習時間の目安や自主学習の例などを示して、児童が主体的に家庭学習に取り組めるようにする。</p> <p>②読書ノート「みね読書人」の一層の活用を図ったり、「読書いっぱい活動」により、家庭と連携して「家読」を奨励したりする。</p> <p>③各種だより・HP等で家庭学習や読書の意義や期待される効果を取り上げ、保護者の協力を得る。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は89.4%で数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 朝の「読書タイム」を継続するとともに、家庭でも読書の時間を確保できるよう、夏休みや冬休みなどの「家読」を奨励する。また、読書ノートへの記入をその都度児童へ呼びかけ、記録を累積させる。引き続き「家庭学習の手引き」を活用するとともに、各学年で自主学習ノートや家庭学習記録カードを利用して、休日を含めた家庭学習の習慣化を図る。「家庭学習がんばり週間」での取組や日々の取組での頑張りを校内・学級内で称賛し、児童の意欲が高まるようにする。</p>
本校の特色・課題	<p>B4 児童は、峰小の合言葉「元気・やる気・思いやり」を意識して生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、峰小の合言葉『元気・やる気・思いやり』を意識して生活するよう指導している」⇒保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>①峰小の合言葉を行事や活動のねらいに位置付け、意識化を図る。</p> <p>②行事や集会等で、合言葉に沿って児童が活動する様子を示すことにより、よりよい校風づくりを推進する。</p> <p>③学校だより・学年だよりにより児童の活動の様子を掲載し、確実に保護者へ合言葉が伝わるように周知を強化する。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答は、93.0%で、数値指標を上回っている。学校・学年だより等への関連記事掲載、朝会での講話、校内掲示物等により、「元気・やる気・思いやり」の合言葉の意識化を図ることができた。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、合言葉に沿って学級目標を設定し、目標実現に向けて努力する様子を示したり、合言葉が目にとまるよう保護者への周知の仕方を工夫したりしていく。</p>
	<p>B5 児童は、各種検定カード等をもとに、めあてをもって運動に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、めあてを決め、達成にむけて運動に励んでいる。(検定・学習カードや一人一台端末の活用)」⇒児童の肯定的回答80%以上</p>	<p>①新体力テストの結果から、課題を明確にし、スポーツ集会や教科体育の時間に計画的に補強していく。</p> <p>②各種検定カード・体育学習カード・ミニマムを活用して各人に応じためあてをもたせ、教科体育や休み時間に取組を支援する。なわとび検定では、児童同士で技を伝達する機会を設け、さらに意欲・技術の向上を図る。</p> <p>③取組の様子を「元気活動」として学校だよりや学年だよりで家庭・地域に知らせ、意欲の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員96.3%、保護者72.4%、児童89.1%の肯定的回答となった。なわとび検定においては、運動委員がお手本動画を作成し、児童へ支援を行った。また、水泳運動、鉄棒、跳び箱の学習においてもカードを活用し、意欲・技術の向上に努めた。昨年度、保護者の肯定的回答が60.0%であったので、検定カードを家庭に持ち帰り確認する機会を設けたり、学年だよりで検定カードを活用していることを発信したりすることで、今年度は72.4%まで上昇した。</p> <p>【次年度の方針】 検定カードや学習カードに保護者確認欄を設け、単元の終わりに家庭に持ち帰り体育の取組状況を発信していく。また、一人一台端末で作成している学習カードや児童がめあてを決めて運動に励んでいる様子を映像で家庭に発信していくなど、全学級で取り組んでいく。</p>

<p>B6 学校は、異学年・幼稚園・保育園・中学校・地域人材との交流により異校種間の交流により学校生活に潤いをもたせ、「来なくなる楽しい学校づくり」を推進している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、異学年の友達と一緒に、充実した活動をしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①児童会活動やクラブ活動、学校行事等において、縦割り班での活動を積極的に取り入れる。 ②幼稚園・保育園・中学校との交流を積極的に行い、授業や活動の内容の充実を図りながら、児童の豊かな心情を培う。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答は93.4%で数値指標を上回っている。委員会活動やクラブ活動、縦割り班清掃や児童会活動での異学年交流により、望ましい関係が築かれ、児童が楽しく学校生活を送る姿が見られた。また、地域人材との交流の機会を確保し、充実した活動を行うことができた。</p> <p>【次年度の方針】 今後も学校行事で縦割り班の活動を取り入れたり、幼稚園・保育園・中学校・地域人材との交流の機会を確保したりして、充実した活動を計画・推進していく。</p>
<p>B7 児童は、自分の歯に関心をもち、食後丁寧に歯磨きをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、食後ていねいに歯みがきをしている」⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①歯と口の健康に関する意識を高めるために、学校医や養護教諭と連携した授業や保健指導を行う。 ②保健だよりを毎月1回発行するとともに、むし歯のない児童を表彰して歯磨きへの意欲を高める。 ③保健委員会を活用して、歯の健康に対する関心を高める。 ④クラス全員での歯磨きをさらに徹底していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員96.4%から96.3%、保護者90.3%から90.7%、児童93.1%から89.8%の肯定的回答となった。養護教諭による歯磨き指導を行ったり、長期休業中に歯垢の染出しを行ったりすることで、歯の健康に対する関心を高めた。また、歯の健康教室も行うことができた。校内放送を活用したり、教室でCDを使用したりしていることで、決められた時間に歯磨きをすることが習慣化されてきた。</p> <p>【次年度の方針】 学校歯科医の指導を仰ぎながら、今年度の取組を継続していく。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

「健康（保健・食・安全）・体力」【元気】においては、A4「健康や安全に気を付けて生活」が、教職員・地域・児童・保護者全てで90%以上の高い肯定的割合が得られた。これは体育の授業を工夫していることや体育的行事での児童の意欲的な姿勢が評価されたと考える。また、栄養士、養護教諭と連携した指導を行い、食育便りや保健便りを通して保護者へ健康に関する取組を発信してきた。さらに、食育月間、マナーアップ月間、おにぎり、お弁当の日、給食週間を活用して家庭との連携をすることができた。学校保健給食委員会では、子どもの実態を保護者に伝え、今後の児童の健やかな成長の為の啓発を行えた。これらの総合的な取組の結果、高い肯定的割合になったと考えられる。また、本校独自の質問項目B5「各種検定カード等をもとにめあてをもって運動に取り組んでいる。」は、教職員・児童の肯定的割合が85%以上であった。保護者の肯定的回答は昨年度より12.4ポイント上昇し72.4%となった。教職員や児童の結果から、B5の項目への積極的な取組がされているため、次年度も引き続き検定カードや学習カードに保護者確認欄を設け、単元の終わりに家庭に持ち帰ったり、一人一台端末で作成している学習カードや自分の映像等で体育の取組状況を家庭に知らせたりすることで、児童がめあてを決めて運動に励んでいる様子を保護者へ発信していくようにする。また、上記の取り組みについて、全学級で取り組んでいく。B7「歯磨き」では、教職員・児童・保護者の肯定的回答が90%以上であった。養護教諭による歯磨き指導を行ったり、長期休業中に歯垢の染出しを行ったりすることで、歯の健康に対する関心を高めた。また、歯の健康教室も行うことができた。90%近い評価は、これらの取組をしてきた結果であると考えられる。以上の結果から、今後も引き続き、体育の授業を中心に運動への関心が高まる活動を実践していく。さらに、保健の授業及び学級活動の時間を通して、児童が自分の体の成長や健康について正しく理解したり、安全への意識をもって生活したりすることができるように指導をしていく。食についても、毎日の給食指導や給食だより等による情報発信、食育コーナーの環境整備を継続していく。そして、地域学校園共通の給食週間やマナー週間及び統一献立の実施、お弁当の日を通して、家庭と連携を取りながら食習慣の形成を図っていく。

「学習指導」【やる気】においては、A1「主体的に学習」の肯定的回答は、教職員・保護者・児童ともに85%以上であった。A3「目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む」は、教職員・児童は90%以上、保護者は84.7%であった。A6「英語を使ってコミュニケーション」は、教職員は96.3%・児童は87.7%であった。A7「宇都宮の良さを知っている」は、教職員は100%・児童は90.1%であった。保護者は81.9%で、保護者の肯定的回答が

昨年度より5.8ポイント上がっている。A8「デジタル機器や図書等を学習に活用」は、教職員は100%・児童は92.9%、保護者は86.8%であった。A14「きめ細やかな指導」の肯定的回答は、教職員・児童・保護者ともに90%以上であった。これらの結果を総合的にみると、児童の肯定的回答はいずれも高く、児童は日々学校において進んで学習に取り組んでいる実態を捉えることができる。教職員・児童と保護者の肯定的回答の差が出たA7についても、近年保護者の肯定的回答は増加しているので、引き続き学年便りなどの各種便り等を通して理解が得られるように努めていきたい。地域学校園共通の質問項目B3「家庭学習と読書の習慣」の肯定的回答は、教職員は96.3%、児童は89.4%以上、保護者74.7%であった。読書ノート「みね読書人」の有効活用などを通して更なる読書習慣の向上を図っていききたい。家庭学習については、音読カードや家庭学習の記録カード等を活用したり、「家庭学習がんばり週間」を設定したりしたことで着実に習慣化が図られてきている。引き続き保護者の理解協力を得ながら、家庭学習の習慣が維持継続できるように努めていきたい。

「**児童指導**」【思いやり】においては、A2「思いやり」B2「きまりやマナー」の肯定的回答は、児童・教職員・保護者・地域住民全てで90%以上だった。また、B1「あいさつ」の肯定的回答は、保護者が88.7%、児童・教職員・地域住民は90%以上という結果だった。「心のこもったあいさつ」を励行したほか、中学校と連携したあいさつ運動、全校児童の希望者から成るあいさつ隊の活動など、児童会が主体となってあいさつ運動を行った結果と考えられる。A11「いじめ対策」の肯定的回答は、保護者が87.2%、児童・教職員・地域住民は90%以上だった。A12「不登校対策」の肯定的回答は児童・教職員・保護者全てで90%以上だった。引き続き、一人一人の児童をよく理解し、大切に、児童がともに認め合う学級経営を行うとともに、いじめは絶対にしていけないことを児童会や保護者と連携して伝えていきたい。また、未然防止、早期発見、事後指導を学校全体で組織的に取り組んでいくことを徹底していきたい。A5「協力して生活をよりよく」の肯定的回答は、児童が91.0%、教職員が100.0%だった。

このような実態を受け、「心豊かで思いやりのある子」を育むために、全教育活動の中に共に学び合う場や自他の良さを認め合う場を意図的に設定し、家庭にも働きかけながら、児童の自己肯定感を高め、望ましい人間関係の醸成に努めていく。また、キャリアパスポート等を活用しながらキャリア教育を推進し、進んで働くことの意義を理解したり、行動したりできる児童の育成を目指す。「あいさつ運動」では、児童会を主体としてPTA・地域学校園などと連携して推進し、あいさつを通して周りの人を大切にする態度を育成する。「峰小よい子の一日」に即した指導を継続的に行い、ルールやマナーを守る態度を育むことで、周囲を気遣い、社会に貢献する気持ちをもつ児童を育てたい。

「目指す学校の姿」について

本校独自の質問項目B4「児童は「元気・やる気・思いやり」を意識した生活」の肯定的回答は、教職員100%・保護者93%・地域100%・児童93.4%となっており、本校の「目指す児童像」を示した合言葉が十分に意識されていることが分かる。

保護者や地域との連携を示す質問項目A17「小中一貫・地域学校園の取組」の肯定的回答は、教職員100%・保護者71.2%・地域100%・児童92.1%、A18「家庭・地域・企業等との連携・協力」の肯定的回答は、教職員100%・保護者93.4%・地域100%・児童92.7%であった。また、本校独自の質問項目B6「来なくなる学校づくり」の肯定的回答は、教職員100%・保護者87.6%・地域91.7%・児童93.4%であった。これらの結果を見ると、学校経営方針の一つである「地域の資源・人材を積極的かつ有効に活用するとともに、地域学校園の教育ビジョンを念頭に置いた教育活動を推進していく」ことができた。このような状況を踏まえて、教育目標を保護者・地域と共有し、教育課程において児童に育むべき必要な資質・能力を明確にして教育活動を推進していく。その際に、地域協議会や宇都宮大学を窓口地域人材・資源の積極的な活用を図り、地域と連携しながら教育目標の実現を図っていく。また、実施した教育活動については、学校だより・学年だより・各種たより・ホームページで積極的に紹介し、学校教育への理解を深めていくようにする。

教職員のみが回答するA10「特別な支援を必要とする児童生徒への適切な支援」、A15「職員全員がチームとなり協力」の肯定的回答が100%、A20「学校のデジタル化推進」の肯定的回答が100%、A16「業務の効率化」の肯定的回答が96.3%であった。今後も教職員が教育に対する高い意識をもち、指導力を互いに生かしながら協力して組織的に教育活動を推進していくとともに、「働き方改革」を進めながら業務の改善・効率化を図っていく。

7 学校関係者評価

「目指す児童の姿」について

(1)「健康(保健・食・安全)・体力」について【元気】

- ・B5「児童は、各種検定カード等をもとに、めあてをもって運動に取り組んでいる。」の保護者肯定的回答が向上してきているのは良いと思う。児童がめあてや目標をもって取り組んでいることを保護者が理解し、応援や認めてあげることは本人の向上心に繋がる。

- ・検定カードは、児童と保護者が共有して取り組むことが必要だと思う。
- ・歯磨きは習慣化され、良好なようだ。
- ・歯磨き指導や歯の健康教室など、家庭でなかなか行き届かないものだと思うのでぜひ続けていっていただきたい。
- ・楽しそうに校庭を駆け回っている児童がたくさんいて嬉しい。
- ・長なわ跳びは、休み時間を利用して練習している場面に出くわしたことがあったが、健康体力面だけでなく、クラスのみとまりや思いやりも見られ、良い企画と感じた。
- ・授業や運動会など見せてもらっているが、児童の行動が元気はつらつ、創意工夫が見られ、頼もしく感じられた。
- ・家庭科の授業の住領域で整理整頓、そうじについて学ぶ時間がある。その時間を有効に使い、学んだ5、6年生が1～4年生を支援するという活動も良いと思う。
- ・A4「児童は健康や安全に気を付けて生活している。」の肯定的回答が児童94.3%、保護者93%、教職員96.3%だが、残り数%のケアが必要なケースがあるのか。

(2)「学習指導」について【やる気】

- ・いずれも高い達成状況であり、素晴らしいと思う。
- ・先生方が工夫して授業を行ってくださっているので、ありがたい。
- ・学習に限らず、多方面に好奇心が旺盛な児童が多いと感じる。
- ・A7「児童は宇都宮の良さを知っている。」の保護者回答が昨年から上がっていて良い。保護者の肯定的回答がいろいろな項目で向上してきていて80%を超えていて、関心度が上がってきていると感じる。
- ・宇都宮市は、宇都宮宗円を家祖として始まる。鎌倉幕府の御家人であり、下野・常陸の国の豪族であった。特に、5代頼綱は武士、御家人、歌人で、藤原定家との親交が厚く「百人一首」の成立に大きく関わった文化人であったなど、素晴らしい歴史をもった土地であることを教え「誇りある宇都宮」の郷土愛を育成する。
- ・タブレットを使用した学習が通常になり、低学年の児童もキーボードを使いこなしていて素晴らしいと感じた。
- ・A14「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」の肯定的回答が97.6%と非常に高く、先生方の学習指導に児童が満足、納得している様子が伺える。
- ・高学年の家庭科の授業に参加したが、個人差があるのはやむを得ないにしても、分からなければ聞く、困っている様子の子に対して友達同士で声を掛けるなど、自分だけ良ければではなく、クラスで高め合う意識が見られ、個人の思いやりが感じられた。

(3)「児童指導」について【思いやり】

- ・いずれも高い達成状況であり、素晴らしいと思う。
- ・A11～13の児童の肯定的回答が95%付近で非常に高く、先生方のご尽力により、児童が安心して生活を送れる環境となっていることが伺える。
- ・思いやりと挨拶の児童の肯定的回答が90%以上で維持している。それがいじめや不登校を未然に防ぐ何よりの根拠。
- ・先生方も積極的に挨拶して下さるので、児童も以前より自分から挨拶してくれる子が増えたように思う。
- ・4、5年前と比べて、寺子屋での児童のトラブル（いじめや喧嘩など）が減ってきたように感じる。
- ・寺子屋に参加して思ったこと。登校班や掃除の班長や上級生だからと従えることなく、声掛けや挨拶ができています。縦割り班活動がしっかりできているおかげのことと思う。
- ・現今の世相は、常識を超えたすさまじい実態が種々表われている。特に、犯罪を見ると、闇バイトとの関係や無差別・面識のない殺人など悪質、非常識、凶暴な犯罪が連続発生している。これも道徳の欠如と考えられる。従って、小さなときからの「心に響く」効果的な道徳教育が必須と考えられる。また、この教育により「いじめ」の問題も解決できると思う。
- ・不登校児の支援や保護者へのサポートはどのようにされているのか、不登校児になってしまう原因や、今時の事情があるのかが気になる。

【「目指す学校の姿」について】

- ・教職員の回答が100%なのが心強い。働いている人たちが自信をもって取り組んでいる姿は、子どもたちに届いていると思う。引き続きよろしくお願いします。
- ・ESD、SDGsについては、優れた実践例が全国にたくさんある。そのような事例も参考にしつつ、さらに充実したものにしていっていただければと思う。
- ・地域の行事については、保護者の理解が乏しく残念。協力を得るのが困難。
- ・峰小の合言葉は、保護者と地域住民が一体となって取り組むことが必要。
- ・「元気・やる気・思いやり」は、峰小の「目指す児童像」で継続していただきたい。
- ・縦割り班の活動がコロナ以前のようにできるようになったようで良かった。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

健康（保健・食・安全）・体力について【元気】

・「健康でたくましい子」の実現活動として、「進んで運動に親しむ態度の育成、自己の健康増進に向けた生活習慣の定着」「望ましい生活習慣の育成と食に関する指導の充実」「自身の安全を守るための判断力や実践力の育成」に努める。次年度は、今年度の授業実践を基に「体力・保健・食育・安全」の4つの分野を関連させて、児童の関心が高まるように外部講師と連携した授業や保健指導、給食指導、安全指導に取り組んでいく。特に、教科体育の充実・視力低下防止の指導・食に関する指導については、家庭に情報を発信するとともに地域学校園とも連携を図りながら取り組む。

学習指導について【やる気】

・「よく考え進んで学ぶ子」の実現活動として、「基礎・基本の確実な定着」「思考力・判断力・表現力等の育成」「家庭学習の習慣化」に努める。地域学校園統一の「学習のきまり」を活用し、学習習慣の定着を確実に図っていくとともに、「主体的・対話的で深い学び」の授業やICT活用力などの研修をより一層重ね、分かりやすい授業づくりに努める。タブレット等のデジタル機器の活用については、授業展開の工夫と個に応じた指導の充実を通して学力の向上を図る。また、引き続き、各学年の学習内容に準じて宇都宮の良さを実感できるよう出前講座や校外学習などを実施し、授業や校外学習の様子を学年だよりなどで伝える。読書については、読書ノート「みね読書人」や巡回図書館の有効活用、地域学校園共通の読書活動、さらに家庭と連携した「家読」の工夫等を通して、読書習慣の向上を図っていく。

児童指導について【思いやり】

・「心豊かで思いやりのある子」の実現活動として、「あいさつ運動」の推進に努める。あいさつ運動では、児童会を主体として家庭や地域学校園などと連携して実施し、あいさつを自発的にできるようにすると共に、心のこもったあいさつを通して周りの人を大切にする態度を育成する。また、「峰小よい子の一日」に即した指導を継続的に行い、ルールやマナーを守る態度を育成するとともに、全教育活動の中に共に学び合う場や自他の良さを認め合う場を意図的に設定し、児童の自己肯定感を高め、望ましい人間関係の醸成に努めていく。そして、「教育相談」や「いじめアンケート」を定期的を実施し、家庭や地域と連携を図りながら、一人一人の児童理解に全教職員で努める。また、児童主体の「いじめゼロ集会」や人権週間の実施、「特別な教科 道徳」の指導方法の工夫などにより、生命や人権を尊重し、差別やいじめを許さない態度の育成を図る。

「目指す学校の姿」について

・学校関係者皆様のご意見から、本校児童や教職員のことを温かく見守っていただいていることが実感できた。今年度の評価をもとに、児童がより充実した学校生活を送ることができるように、「一人ひとりにとって居がいのある学級づくり」「分かる授業の展開と個に応じた指導の充実」「学習環境の整備・充実」を継続的に実施していく。また、学校の教育活動や児童の様子については、学校公開を行ったり、保護者や地域に適宜発信したり、保護者・地域と課題を共有し役割を分担して対応したりするなど、保護者や地域と連携を図りながら地域とともにある学校の実現により一層努めていきたい。

今年度明確になった成果と課題を踏まえ、「チーム峰」としての組織力を発揮しながら、次年度も学校運営の最重点活動である【峰小 元気・やる気・思いやり活動】を全校体制で推進していく。